

会 議 議 事 録

1 会議名	第1回長岡市文化財保護審議会
2 開催日時	平成29年8月9日(水曜日) 午後1時30分から午後3時まで
3 開催場所	さいわいプラザ 4階 教育委員会会議室
4 出席者名	審議会委員 伊藤善允、鈴木昭英、笹原ミヨシ、高橋 實、羽鳥仁一、 原武嗣、平山育男、深澤三枝子、星野紀子、三富良晴 委員以外の出席者 金澤教育部長 (事務局=科学博物館) 小熊科学博物館長、佐藤科学博物館長補佐、田中文化財係長 鳥居主査、新田主査、小林主査、丸山主査、加藤主査、 山賀主査
5 欠席者名	
6 議題	(1) 稲場遺跡の発掘調査成果について (2) 新たに日本遺産に認定された『荒海を越えた男たちの夢が 紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落』について (3) 国史跡『馬高・三十稲場遺跡』の追加指定について
7 審議結果の概要	(1) 稲場遺跡の発掘調査成果について(資料1) 概要を加藤主査から報告 (2) 新たに日本遺産に認定された『荒海を越えた男たちの夢が 紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落』について(資料2) 概要を加藤主査が報告 (3) 国史跡『馬高・三十稲場遺跡』の追加指定について (資料3) 概要を小林主査が報告
8 審議の内容	

委員	(1) 稲場遺跡の調査について 遺跡の時代が奈良・平安時代ということだが、もう少し絞り込むといつ頃の遺跡か。
事務局	出土遺物から見れば8世紀後半から9世紀を中心とした時期になる。
委員	奈良・平安時代と聞くと古い時代からかなり長い時期の印象になるため、できるだけ何世紀頃と言えるとよい。
事務局	現在整理中のため、少し幅を持たせた説明をした。今後整理する中で具体的な時期を示していくことにしたい。
委員	(2) 新たに認定された日本遺産について 寺泊の構成文化財の中で寺泊港の集落と寺泊おけさが指定文化財になっていないが、今後指定する予定はあるか。
事務局	日本遺産の構成文化財は、必ずしも指定文化財でなければならないわけではないので、現在のところ指定の予定はない。
委員	申請自治体はどういう自治体か。
事務局	北前船の寄港地がある自治体に限られる。また、これまで北前船サミットを行っていた自治体が母体となっている。北前船の寄港地がある自治体すべてが入っているわけではないので、今後増える可能性もある。
委員	今後新たに追加される場合には、審査はあるのか。
事務局	今回と同じく日本遺産審査委員会の審議を経て追加認定される。昨年日本遺産に認定された火焰型土器の関連では、今年度魚沼市が追加で認定されたが、審査委員会の審議を経ている。
委員	集落の建物は古くないのか。
事務局	寺泊に江戸時代にさかのぼる建物は残っていない。集落の建物も当時の雰囲気を残した場所も少し残っているため、そこを構成文化財とした。
委員	北前船はいつごろまであったのか。
事務局	明治30年代までは航行していた。
委員	明治26年にアメリカで開催されたシカゴ万国博覧会に小国和紙が出品された。その表彰状が新潟港から小舟で信濃川を經由して小国まで

<p>委員 事務局</p> <p>委員 事務局</p> <p>委員 事務局</p> <p>委員 事務局</p>	<p>届けられた。送り状が、小国に残っている。直接的に北前船に関わるかどうか分からないが、同じ時代の話なので興味深い。</p> <p>もう少し細かく見ると、他にも小路やイワシ祭りなどの北前船に関連するものがある。また北海道の江差町が入っていないのが残念。</p> <p>江差町は北前船の関連文化財が多く残っているところであるが、江差町は単独で日本遺産に申請したため、長岡市が入っている日本遺産には参加していない。江差町は、今回「江差の五月は江戸にもないーニシンの繁栄が息づく町ー」として同時に認定されている。</p> <p>(3) 国史跡『馬高・三十稲場遺跡』の追加指定について 追加で指定される部分の内、一番北側の範囲は、未調査なのか。 2003年に確認調査を実施しており、少量の遺物が出土している。</p> <p>稲場という地名が付く遺跡をよく見るが、稲場という地名の意味はなにか。</p> <p>水田のハサ掛けをしたような地域に稲場の名前が付いている。遺跡の名前は、小字名が付くことが多い。</p> <p>馬高遺跡の場合は、小字名ではなく、地元の方が通称で呼んでいた地名を遺跡の名前にしてある。</p> <p>追加指定された部分は、将来買収する予定か。</p> <p>現在のところまだ測量を実施していないため、すぐには買収というわけにはいかないが、史跡の活用を考えた場合に将来的に買収した方が活用しやすいと考えている。</p>
<p>9 会議資料</p>	<p>別添のとおり</p>